

市民アンケート結果の概要

1 調査方法の概要

手法：インターネットアンケート

時期：令和 2 年 2 月

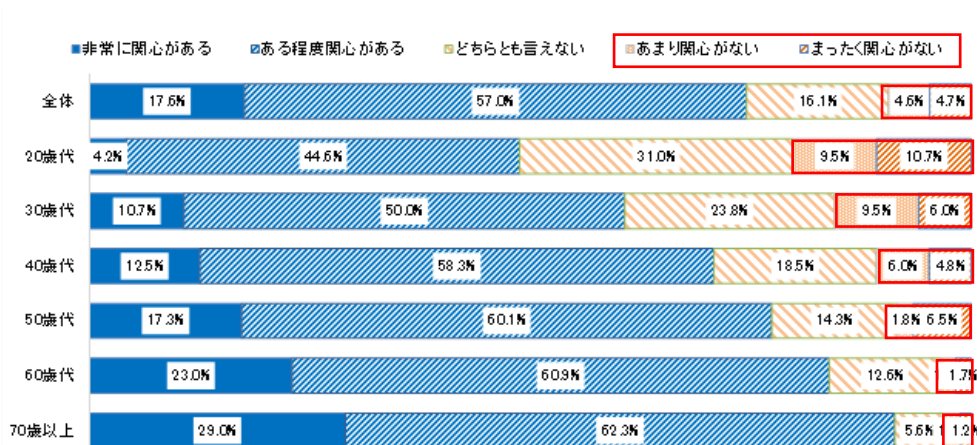
対象者：京都市民 1,008 件（性別及び年齢層（10 歳刻み）別に均等数をサンプリングしたうえで、集計に当たっては、京都市の人口分布に合わせた補正を実施）

2 調査によって明らかになった主な課題

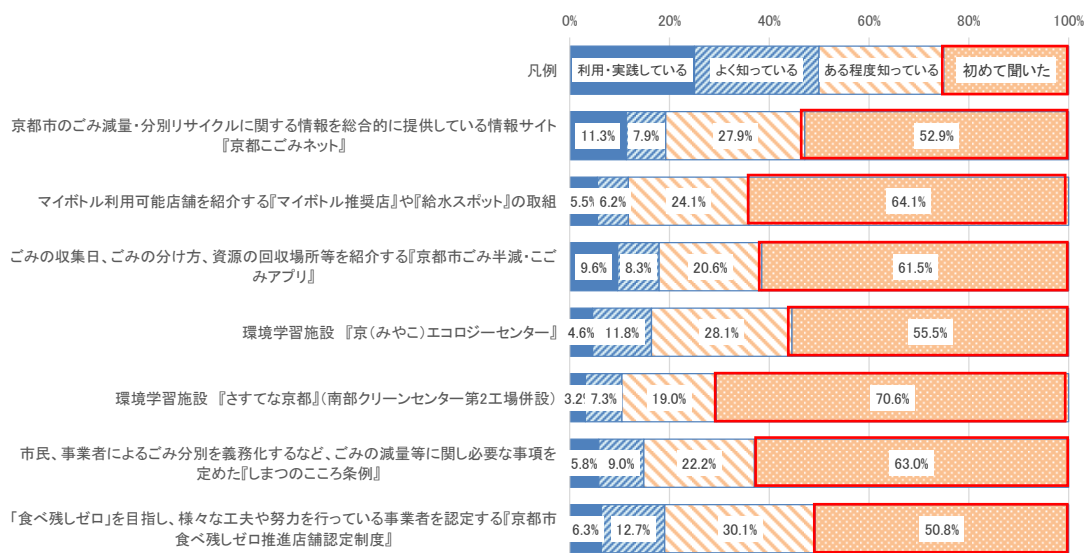
- ・ごみ問題に無関心な人が約 1 割おり、若い世代ほどその割合は高い（20 歳代・30 歳代は約 2 割）。若い世代を中心とした無関心層へのアプローチが課題である。→3(1)
- ・京都市の取組について、「しまつのころ条例」でさえ 6 割以上の方が「初めて聞いた」と回答しており、取組の周知・浸透方法の改善が課題である。→3(2)
- ・リユースを実践している人の割合がリデュースやリサイクルと比べて低い。片付け時等に排出されている大型ごみや持込ごみには本来リユースできるごみも多く含まれていると考えられるため、フリーマーケット等のリユース、シェアリングの浸透等に合わせた取組の促進が課題である。→3(3)(7)
- ・家庭での食品ロスの発生原因について、賞味・消費期限の確認不足による期限超過が原因で発生している人が約 4 割おり、賞味・消費期限のこまめな確認を促すための取組が課題である。→3(4)
- ・プラスチック製容器包装と雑がみを全く分別していない人がそれぞれ約 1 割おり、若い世代ほどその割合は高い（20 歳代・30 歳代では約 2 割）。また、「居住しているマンションに分別排出場所がない」・「分別排出場所がわからない」・「分別する必要があると知らなかった」と回答した人がそれぞれ約 1 割近くおり、分別環境の整備・周知が必要である。→3(5)(6)
- ・プラスチック製容器包装について「どこまで汚れをとればいいのかわからない」と回答した方が約 3 割、雑がみについて「雑がみに該当する紙の種類がわからない」と回答した方が約 2 割おり、分別方法の周知啓発が課題である。→3(6)
- ・発火の危険性があるスプレー缶やリチウムイオン電池、電子タバコ等の有害危険物を燃やすごみに出している人が一定数おり、分別回収の促進が課題である。→3(8)

3 主な調査結果

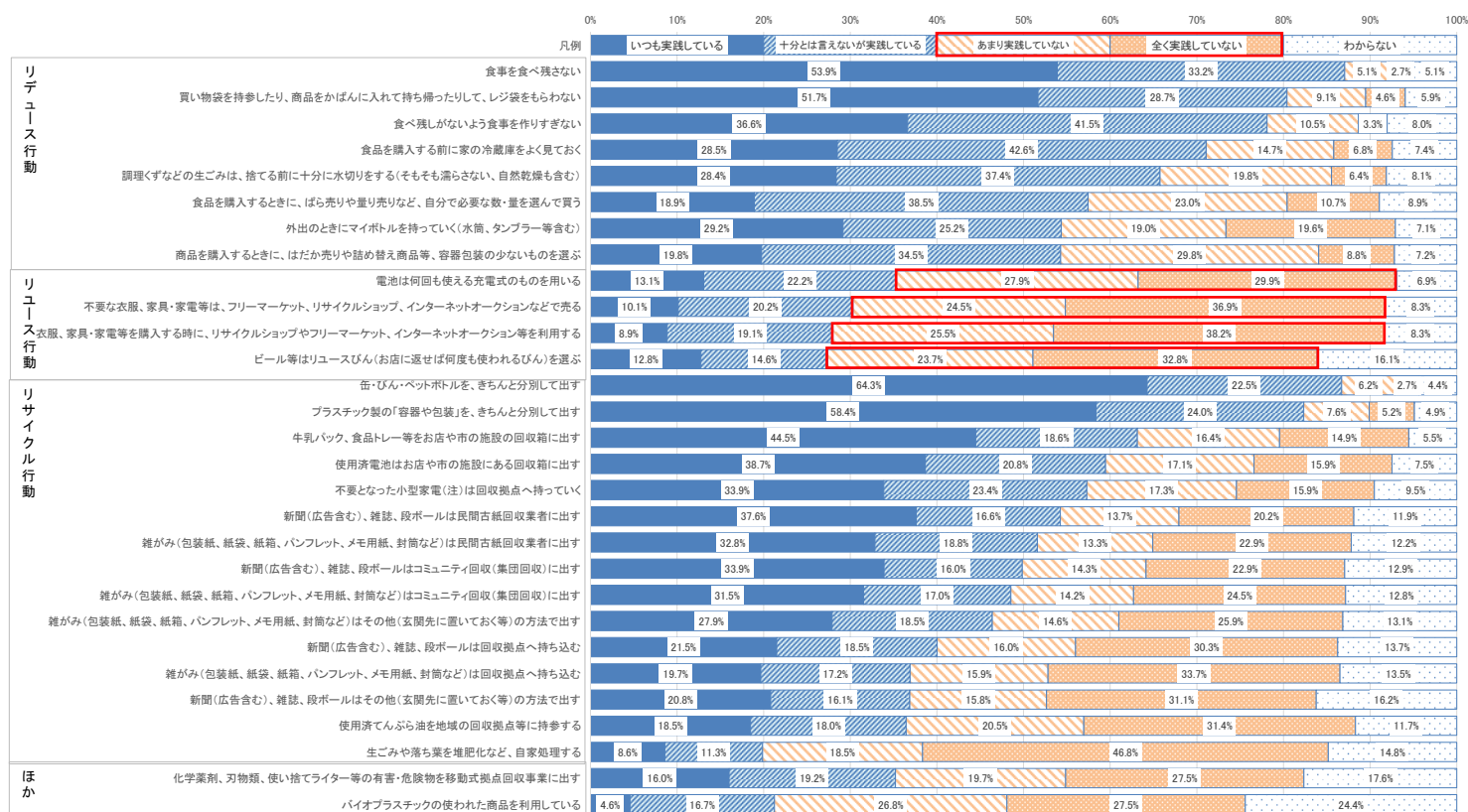
(1) ごみ問題への関心について



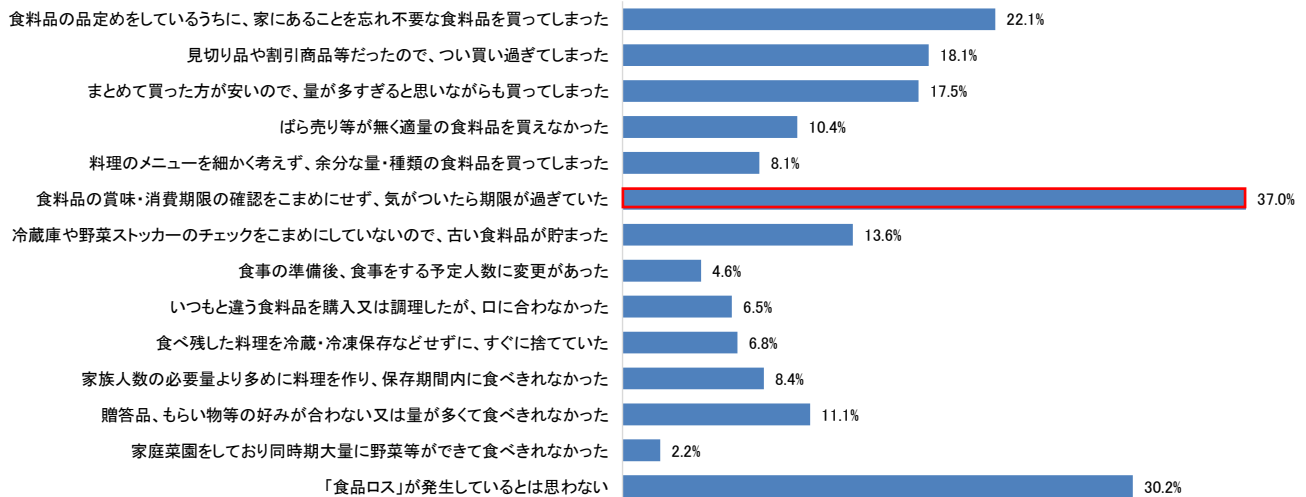
(2) 京都市の取組の認知度



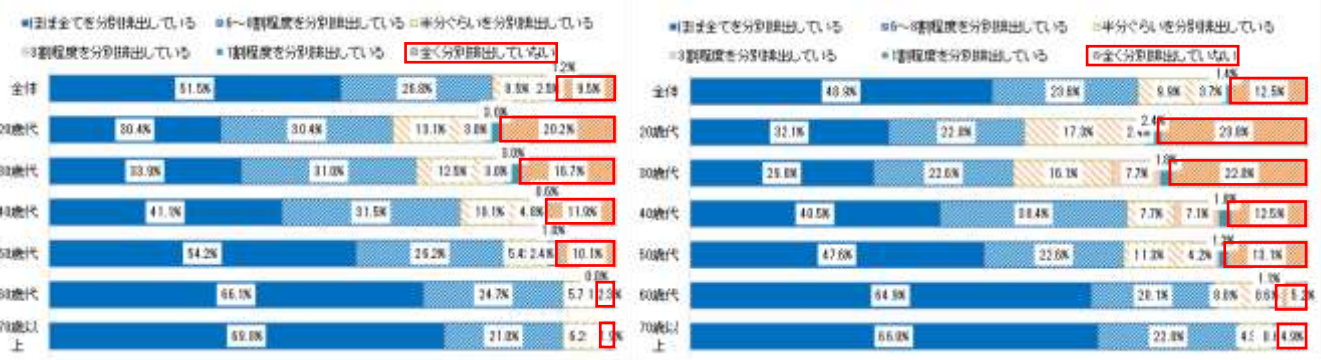
(3) 日常生活におけるごみ減量等の取組の実施状況



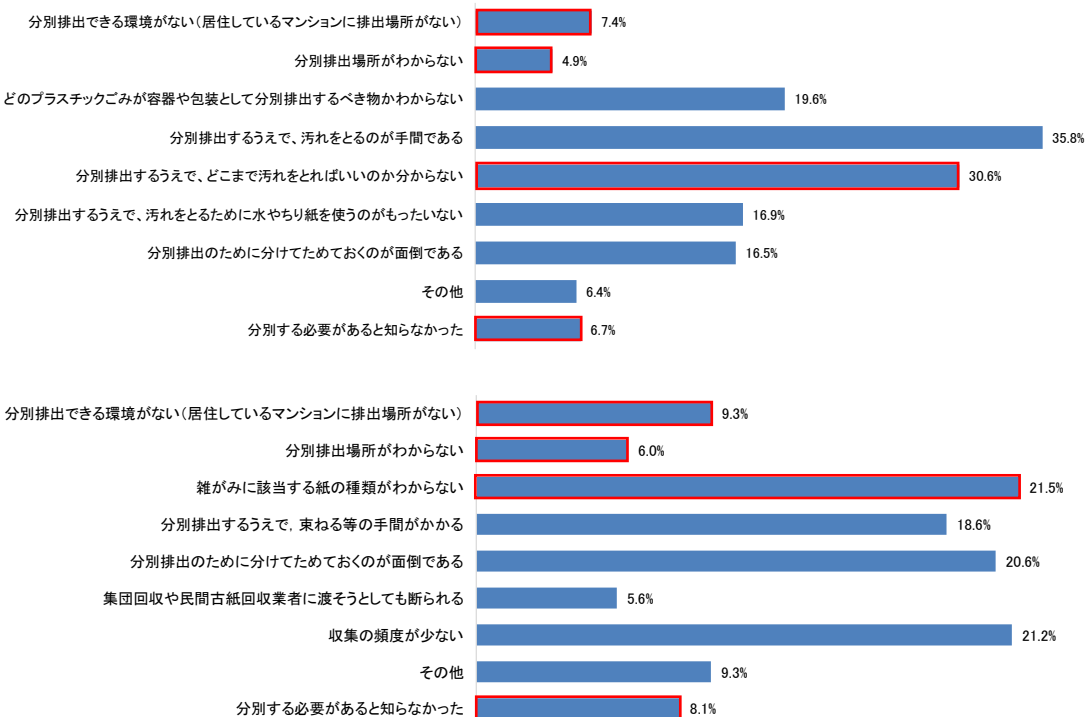
(4) 食品ロスの発生原因について



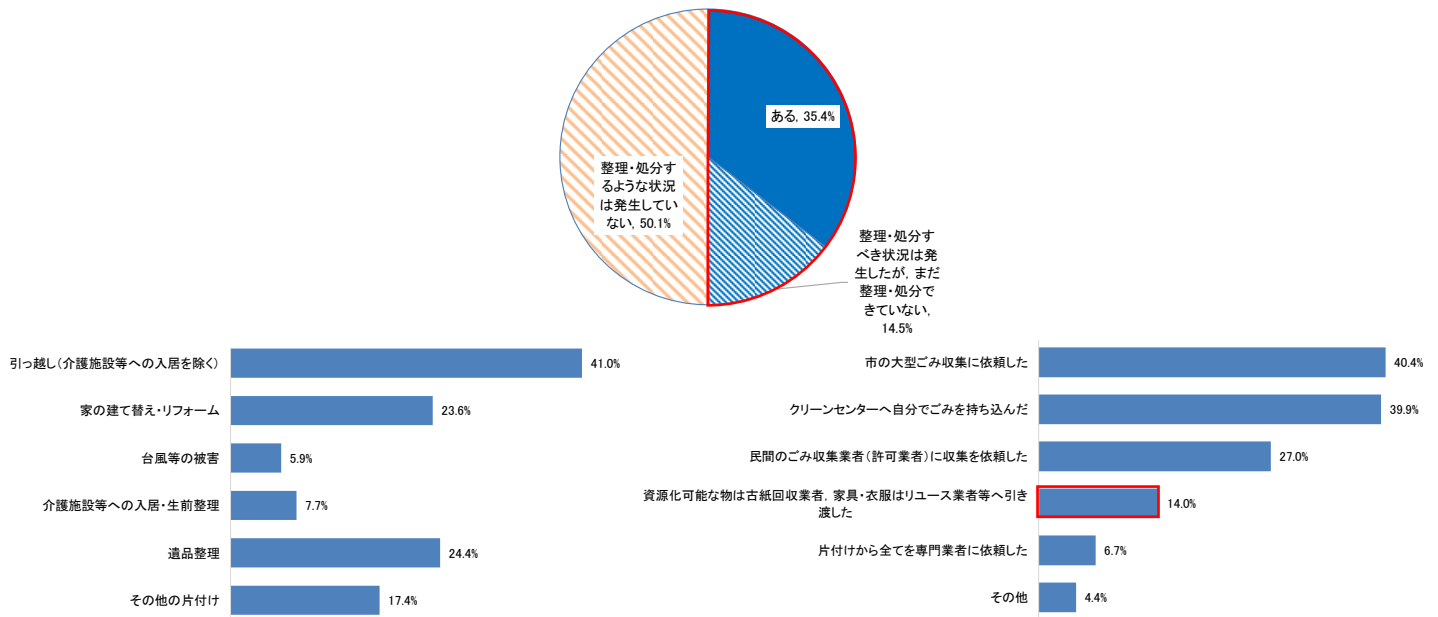
(5) 「プラスチック製容器包装」や「雑がみ」の分別排出について（左図：プラ、右図：雑がみ）



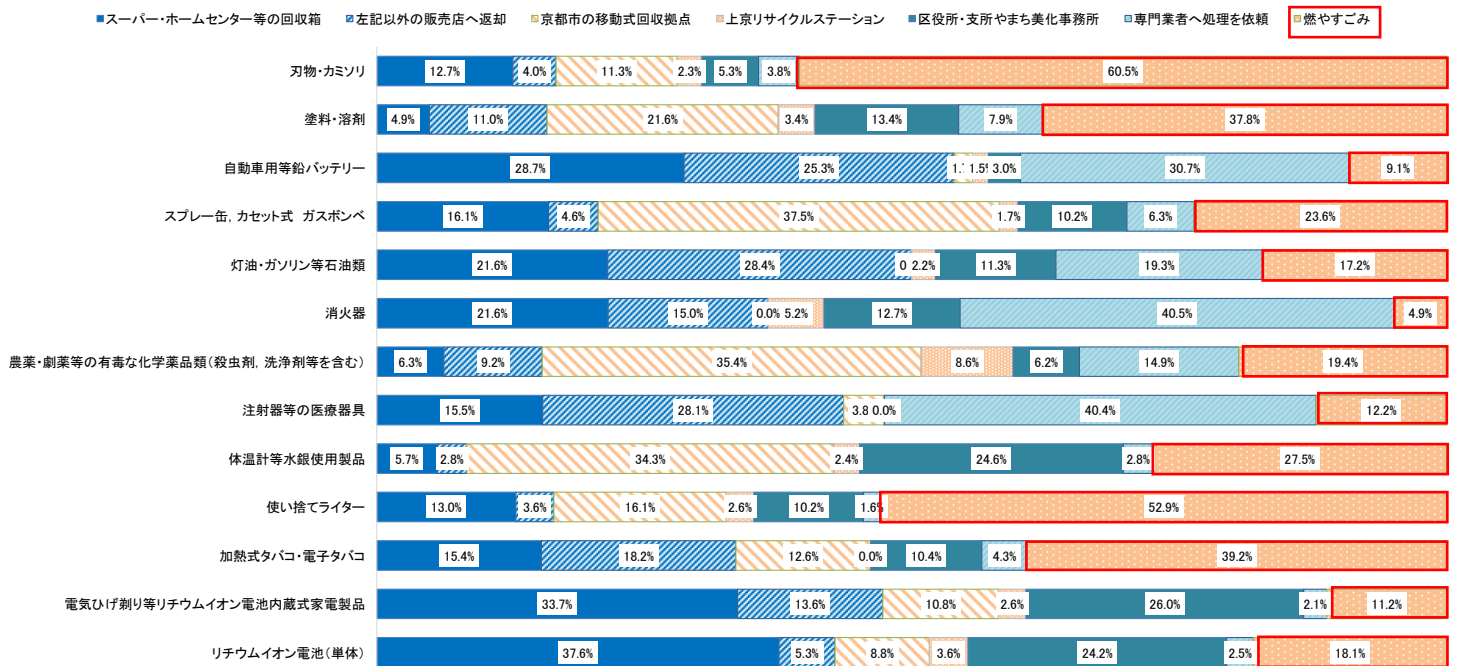
(6) 「プラスチック製容器包装」や「雑がみ」の分別排出上の問題（上図：プラ、下図：雑がみ）



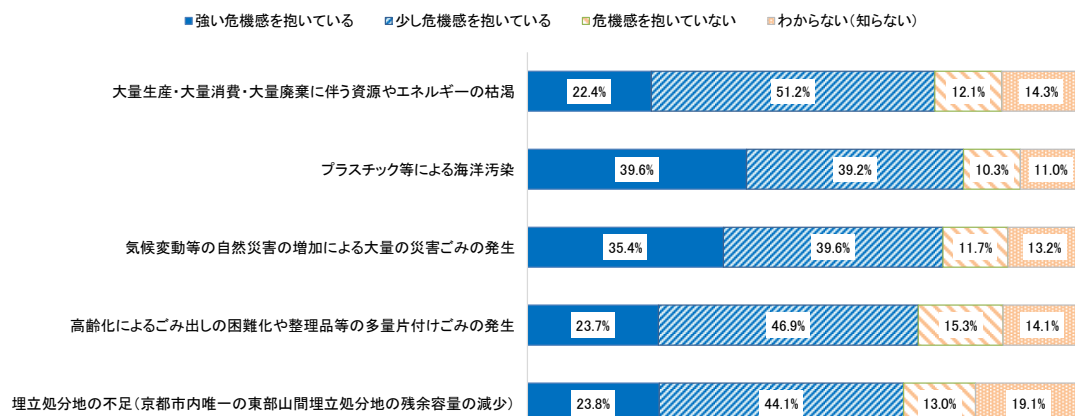
(7) 一時多量ごみの整理・処分について



(8) 有害・危険物の家庭からの発生と処理について



(9) ごみが関連する問題への危機感について



観光客アンケート結果の概要

1 調査方法の概要

手法：インターネットアンケート

時期：令和2年2月

対象者：1,000件（日本人：800件，中国人：100件，アメリカ人：100件）。

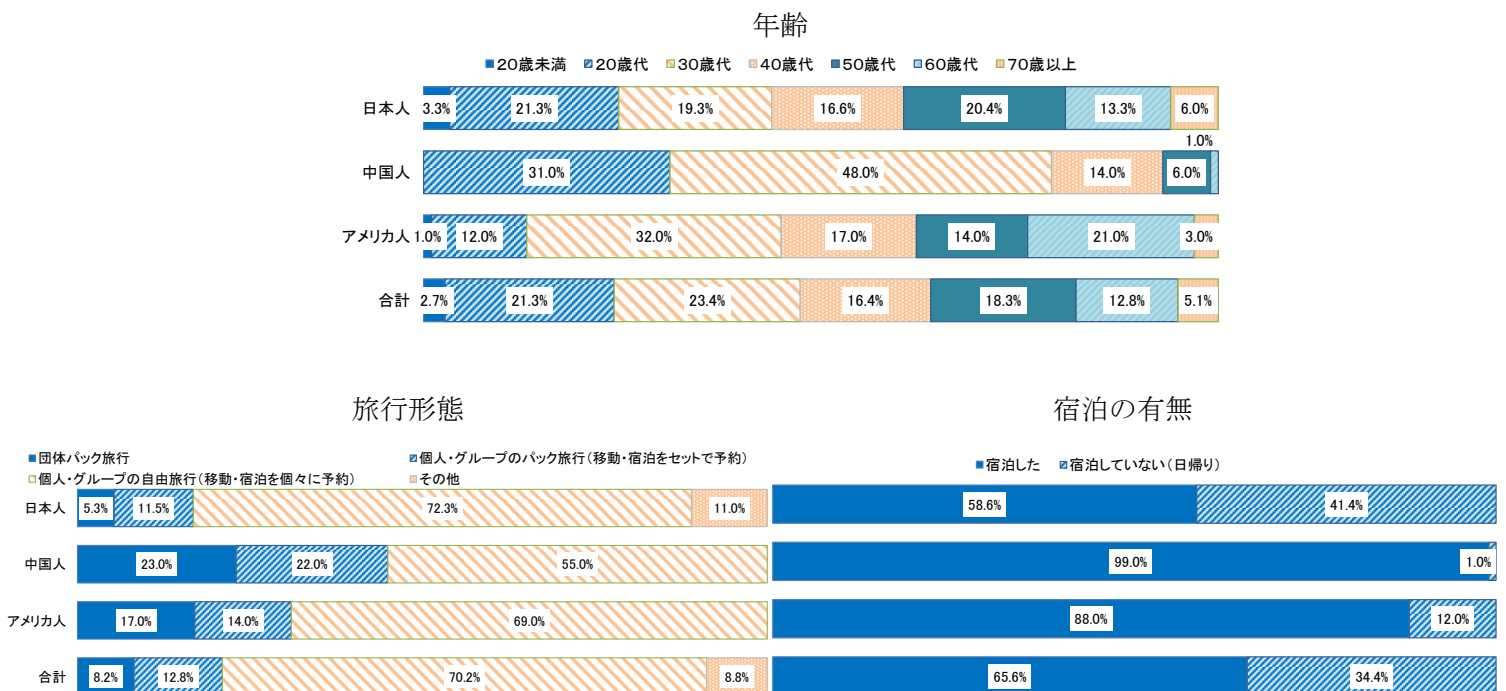
2018～2019年に京都市内を訪れた京都市外在住の方。ただし，日帰りビジネス客は含めない。

2 調査によって明らかになった主な課題

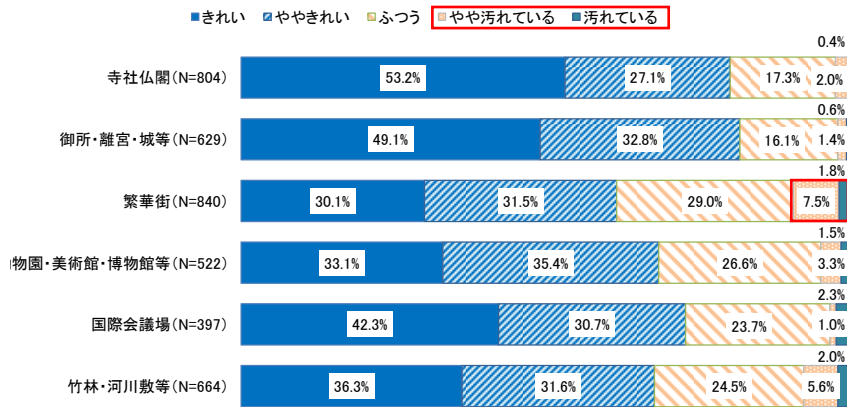
- ・市内観光地等の中で繁華街について、「汚れている」「やや汚れている」と感じている観光客が約1割いた。観光・散策時には，コンビニエンスストアや駅，歩道上等の街中のごみ箱にごみを捨てる方が多く，また，街中のごみ箱の数を増やしてほしいという意見が多く寄せられた。繁華街を中心として，ごみの散乱の未然防止や観光・散策に伴うごみの回収促進が課題である。→3(2)(3)
- ・マイバッグ，マイボトルともに，持参した観光客の割合は半数以下であり，これらの携帯の促進が課題である。また，マイボトルへの飲み物の補充方法について，ペットボトル飲料等を購入し移し替える人が半数近くおり，ごみの減量のためには，給水スポットなど飲み物を補充できる環境整備もまた重要である。→3(4)
- ・旅行中，「よく食べ残した」「少し食べ残した」と回答した観光客が約1割おり，日本人と比べて外国人の方がその割合が高かった（日本人7%，中国人26%，アメリカ人25%）。食べ残しを減らすためには，「求めれば持ち帰りができるようにしてほしい」「料理の注文時に量や内容がわかるようにしてほしい」と回答する人がそれぞれ約半数おり，飲食店にこれらの対応を促すことが課題である。→3(6)(7)

3 主な調査結果

（1）基本属性



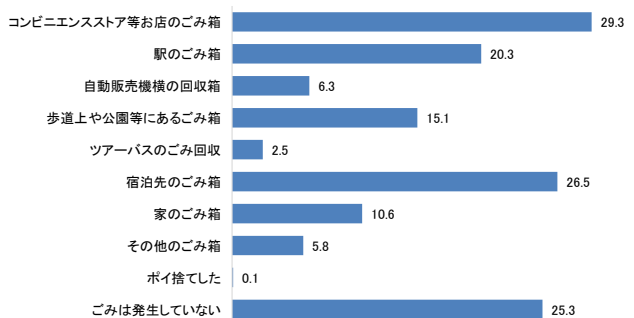
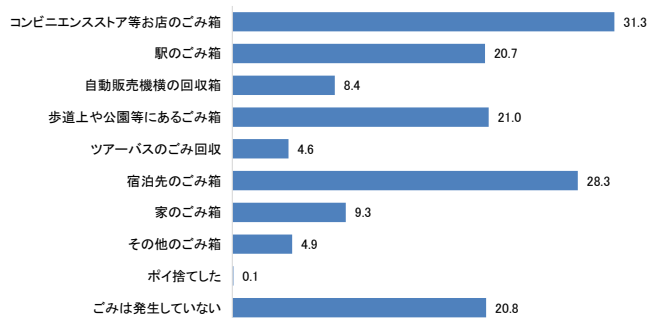
(2) 訪問場所の美化の状況



(3) 観光・散策時のごみの排出について

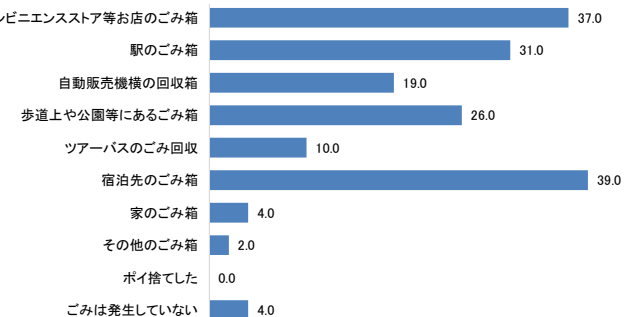
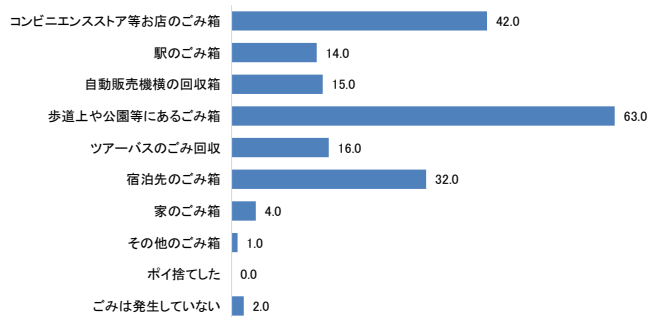
(合計)

(日本人)



(中国人)

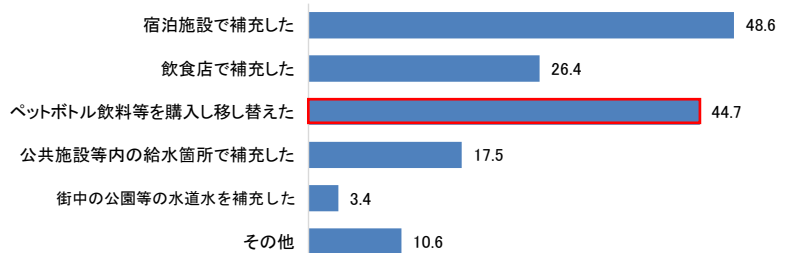
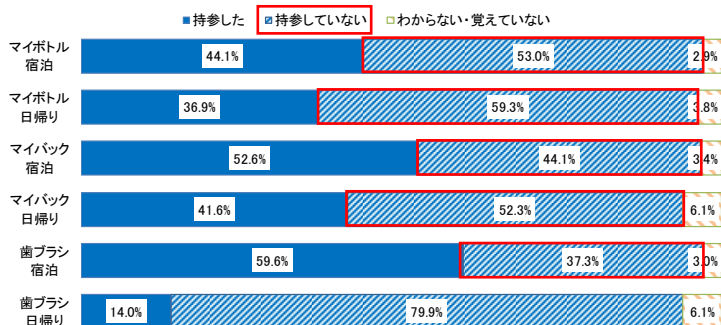
(アメリカ人)



(4) マイバッグ等の持参及びマイボトルへの飲み物の補充方法について

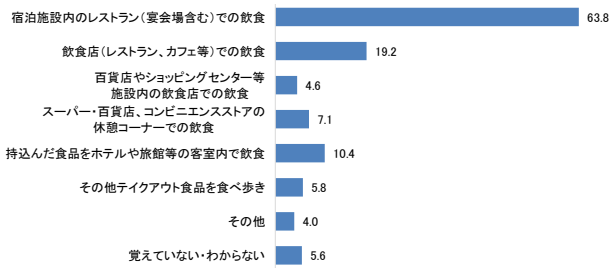
マイバッグ等の持参状況 (宿泊・日帰り別)

マイボトルへの飲み物の補充方法

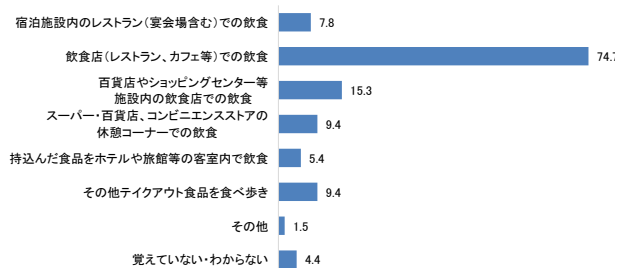


(5) 市内旅行中の食事場所について

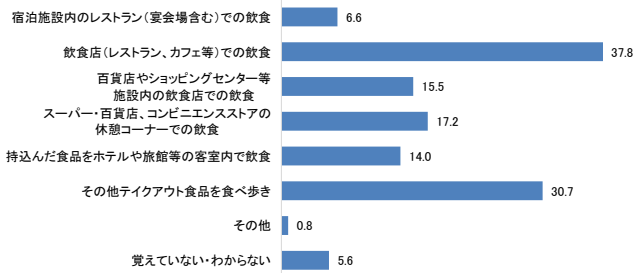
朝食 (日本 565 人, 中国 99 人, アメリカ 92 人)



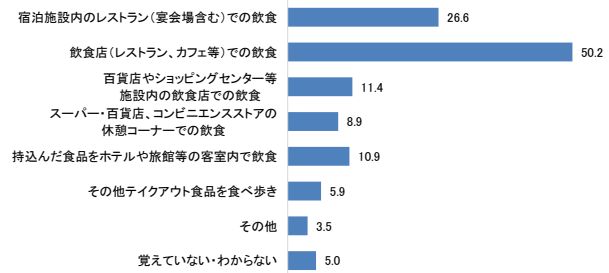
昼食 (日本 744 人, 中国 100 人, アメリカ 100 人)



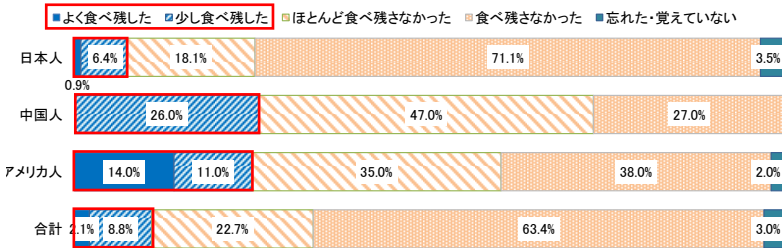
間食 (日本 590 人, 中国 79 人, アメリカ 87 人)



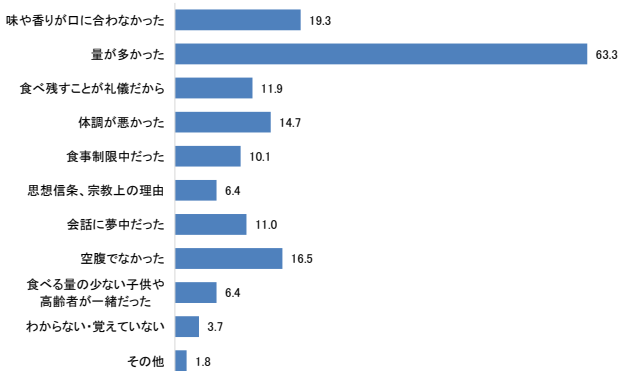
夕食・晩ご飯 (日本 644 人, 中国 95 人, アメリカ 96 人)



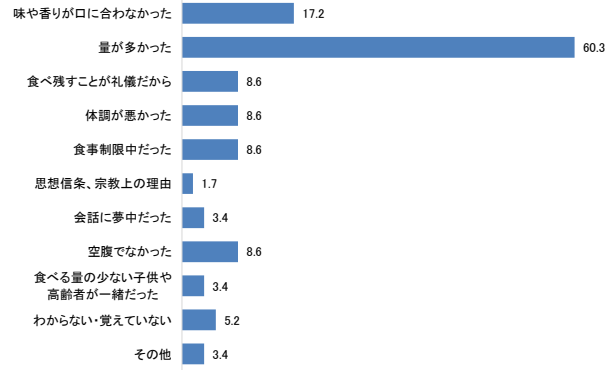
(6) 食べ残しの発生状況及び理由について



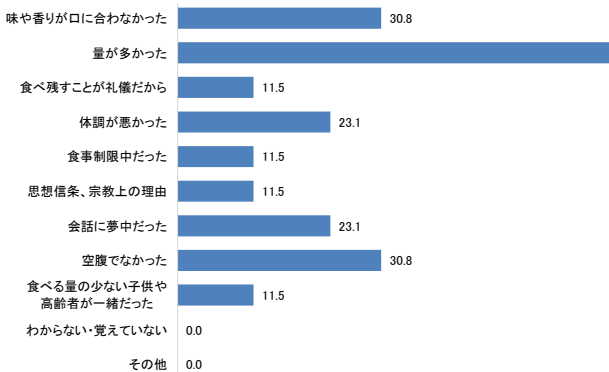
(合計 109 人)



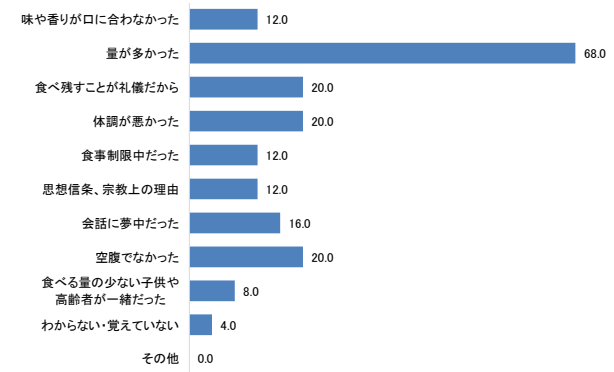
(日本 58 人)



(中国 26 人)

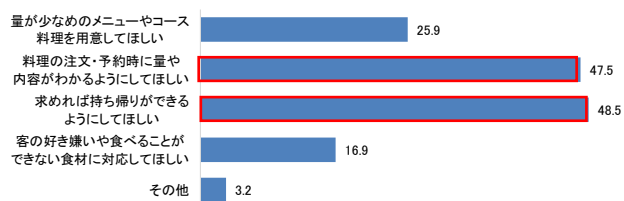


(アメリカ 25 人)

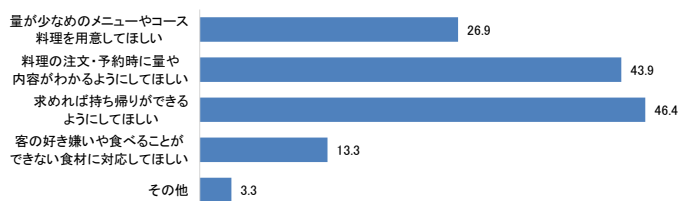


(7) 食べ残しを減らすための要望

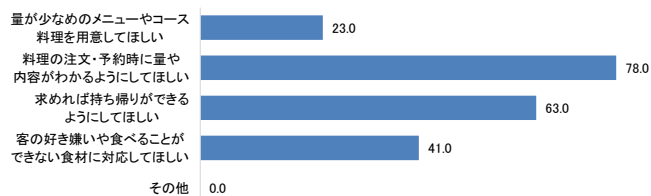
(合計)



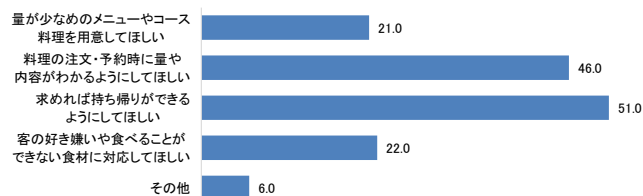
(日本人)



(中国人)



(アメリカ人)



事業所アンケート結果の概要

1 調査方法の概要

手法：郵送回収

時期：令和 2 年 1～2 月（新型コロナウイルス感染症拡大による影響はまだないものと考えられる）

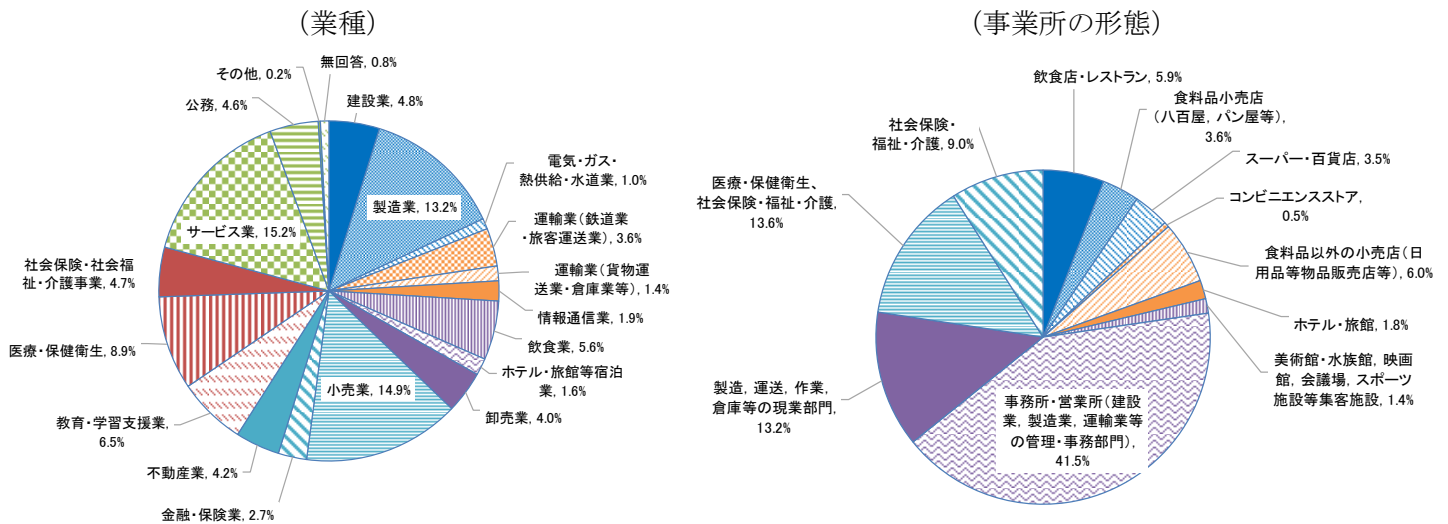
対象者：市内の事業者（有効回収数 970）

2 調査によって明らかになった主な課題

- ・ 事業所から排出されるごみ量を把握していない事業所が 3 割以上あり、また、その割合は小規模な事業所ほど高い。ごみ減量の取組の一步として、ごみ量の把握（見える化）を促すことが課題である。→3(2)
- ・ プラスチックを分別していない事業所が約 3 割、雑がみを分別していない事業所が約 4 割あり、その割合は小規模な事業所ほど高い。分別指導の徹底が課題である。→3(3)
- ・ 従業員にマイバッグやマイボトルを推奨していない事業所が約 6 割あり、従業員にマイバッグやマイボトルを推奨するよう促すことが課題である。→3(4)
- ・ ペーパーレス化や両面コピー等の紙ごみ削減に取り組んでいない事業所が約 2 割、社員食堂等で食べ残しが少なくなる工夫をしていない事業所が約 3 割あり、これらの取組を促すことが課題である。→3(5)
- ・ 食品関連事業者のうち、特に飲食店とホテル・旅館について、食品リサイクルに取り組んでいない割合が高く（飲食店 81%、ホテル・旅館 65%）、食品リサイクルの促進が課題である。また、食べ残し持ち帰り用の容器を用意していない飲食店が約 6 割あり、食べ残しの持ち帰りの促進が課題である。→3(6)(8)

3 主な調査結果

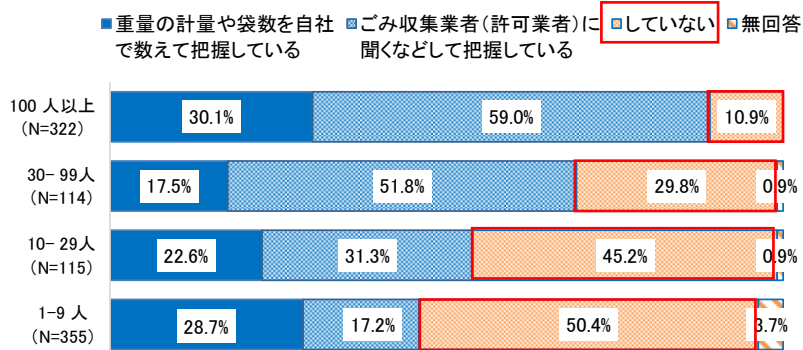
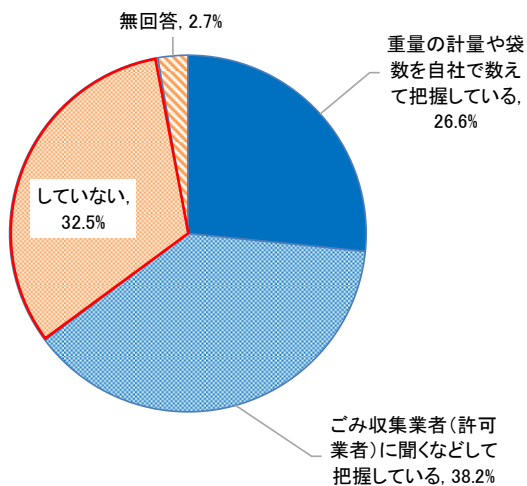
（1）基本属性



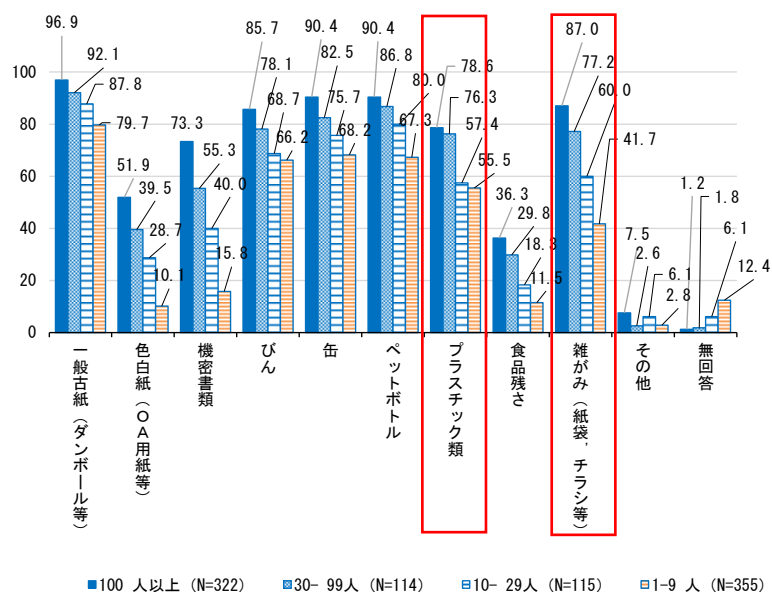
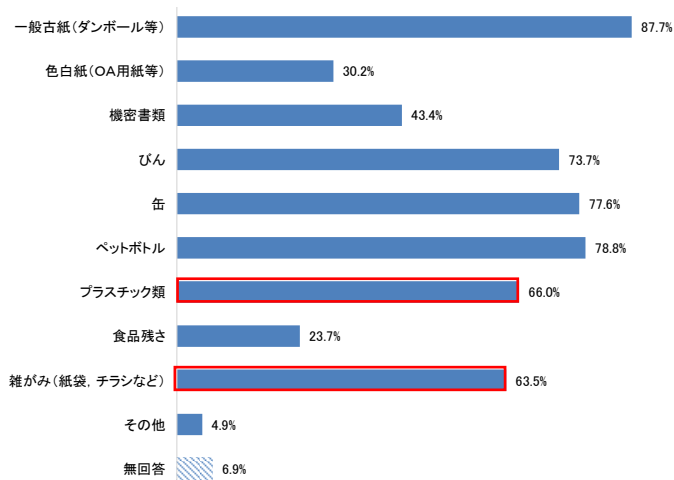
事業所の規模（従業員数）

事業所の規模(従業員数)	割合 (%)
1～9 人	36.5
10～29 人	11.9
30～99 人	11.8
100 人以上	33.2
無回答	6.6

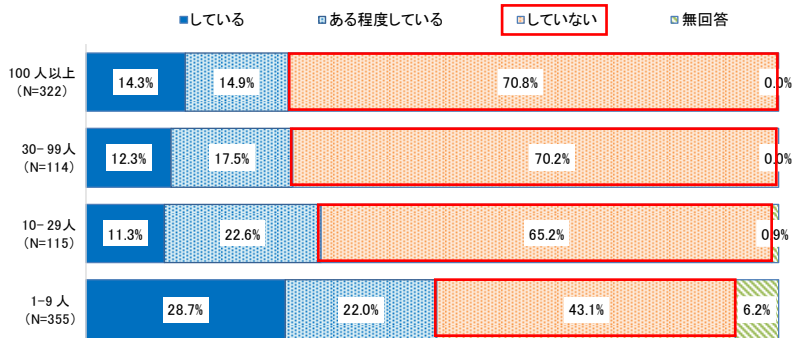
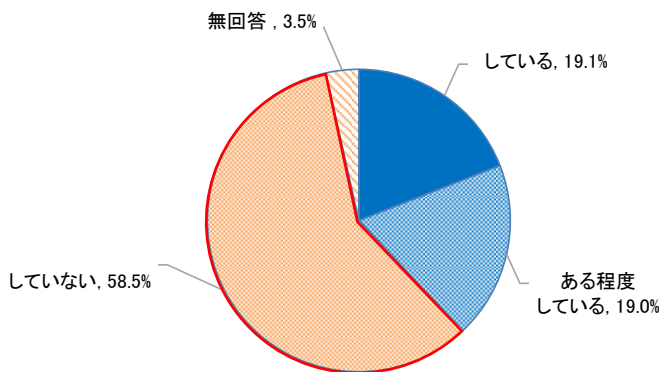
(2) ごみ量の把握について



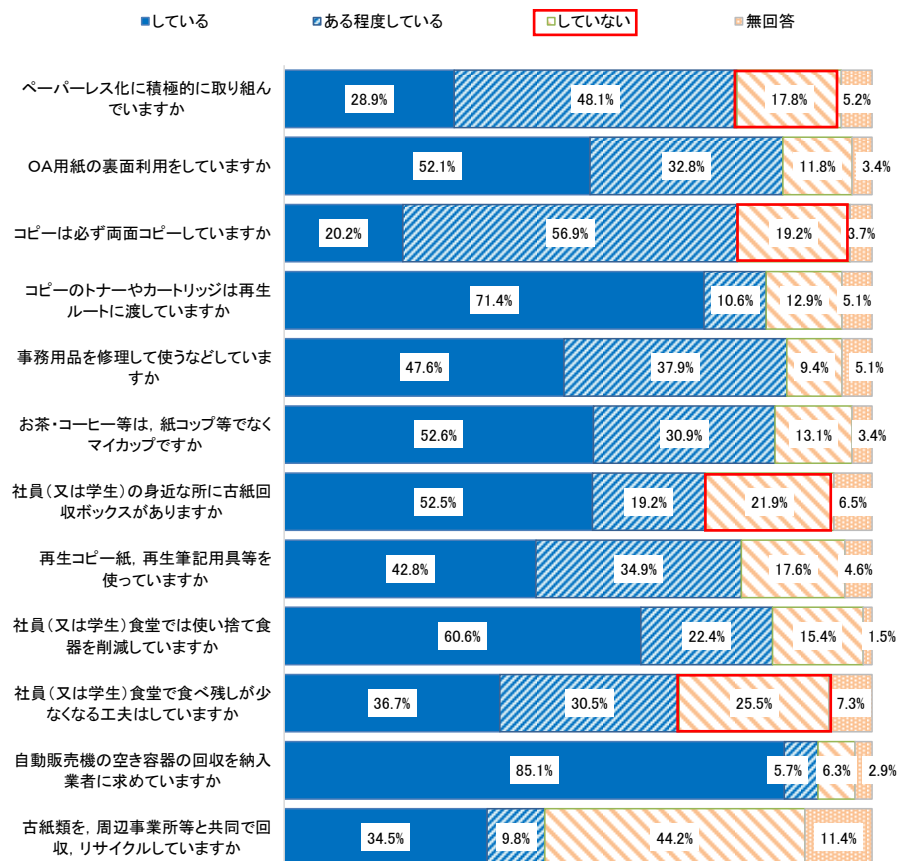
(3) 取り組んでいる分別品目について



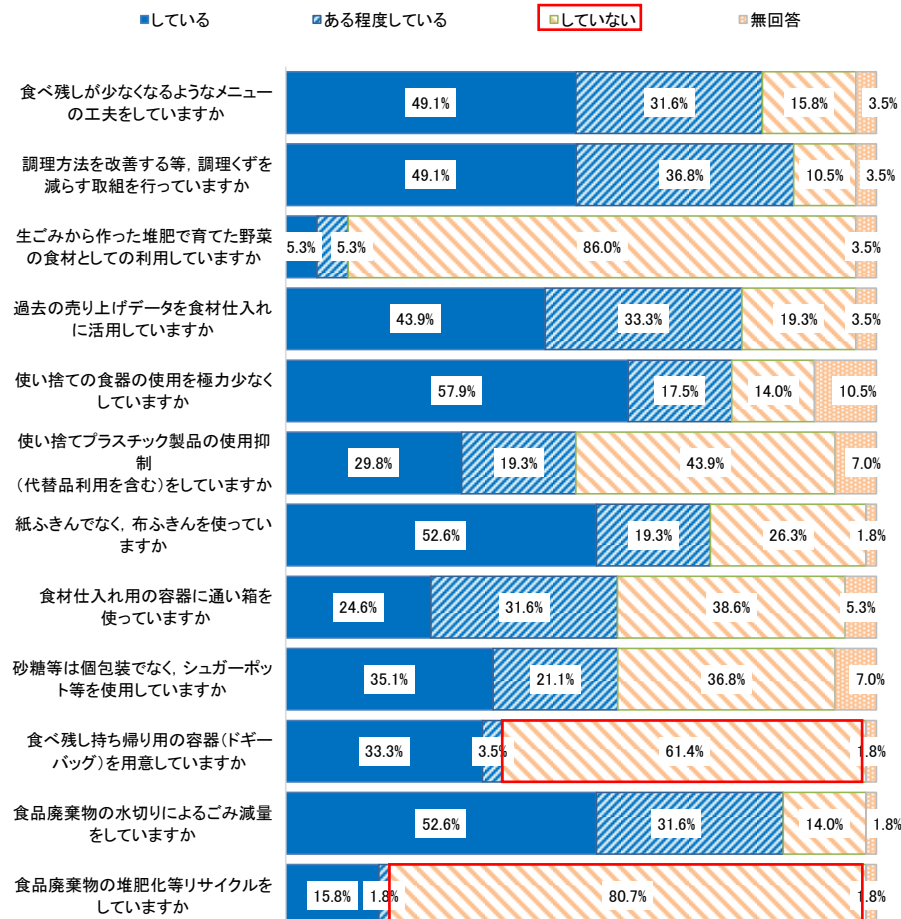
(4) 従業員へのマイバッグやマイカップ, マイボトルの利用の推進について



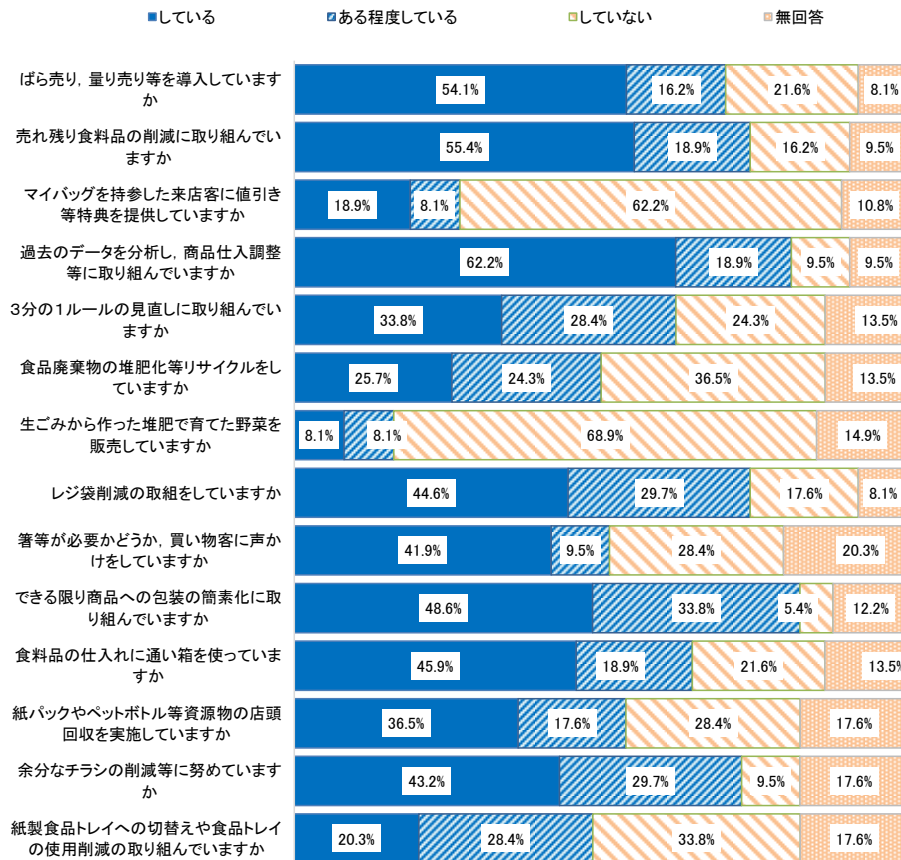
(5) 事業所で取り組んでいるごみ減量対策（全事業所）



(6) 飲食店・レストランで取り組んでいるごみ減量対策（57 店）



(7) 食料品小売店、スーパー・百貨店、コンビニエンスストアで取り組んでいるごみ減量対策(74 店)



(8) ホテル・旅館で取り組んでいるごみ減量対策(17 店)

